

◆俯瞰メルマガ第 95 号◆

俯瞰工学研究所の松島克守のメールマガジンです。俯瞰メール 95 号をお送りします。pdf 版はホームページに掲載し、facebook の俯瞰工学研究所のページにおいてもノートに掲載いたしますので、ご利用ください。

◆時候のご挨拶◆

冬が来ました。12 月です。街はクリスマスに向けたライティングです。低消費電力の LED でライティングが広がりました。最近、夜、街に出ることが少ないので、新鮮です。先日、久しぶりに居酒屋に行きました。店は働き盛りの人たちで満員、昔は自分もここに居たという、過去の世界に気持ち引き戻される時です。

●グローバル化を冷静に見直す時が来た

●難しくなってきた米中の冷戦

●米日韓の同盟から中朝韓の同盟を夢見ている文在寅大統領の悲喜劇

●俯瞰のクッキング“サンマ料理 2 皿”

●Kindle で電子出版を体験

●俯瞰の書棚 “サムライたちのイノベーション”

●雑感・私感

◆グローバル化を冷静に見直す時が来た◆

ヨーロッパで右派勢力が勢いをつけています。そして EU 懐疑派です。EU の中核であるドイツでも、右派勢力の台頭と連立野党の SPD の連立懐疑派の勢力が強くなってきました。EU におけるドイツのリーダーシップは弱まってきました。もう一つの EU の核であるフランスのマクロン大統領も、影響力を落としています。すなわちヨーロッパは、統合とは反対の方向に動き出していることとなります。

少し前は、ポピュリストが大衆迎合の公約で勢力を伸ばしてきたように見えてましたが、この反グローバル化の流れは、もっと深刻に分析する必要があると考えるようになりました。激しく荒れたフランスの黄色いジャケットデモは、右派勢力の台頭は国民がポピュリストに煽られているのではなく、心底怒っているという事を知らしめました。マクロ大統領も EU の統合推進という理想論を引っ込めて、国民の声を聞かざるをえませんでした。

即ち、フランスの黄色いジャケットデモ、イギリスの EU 離脱、東ヨーロッパの強権政治、ギリシャ、イタリアの中国接近、スペインの政治不在等、すべて反グローバルという、うねりの中で起きていると思わざるを得ません。

ちょうど 30 年前のベルリンの壁の崩壊がグローバル経済のスタートポイントだとすると、この 30 年で、世界に大きな社会的、経済的な変化が起きました。インターネットというテクノロジーは時空を超えた情報共有を可能にし、グローバル化を推進しました。

そのグローバル化の結果は、世界経済全体の 10 倍近い拡大と、強い者お金を持っている者はますます強く豊かにし、弱い者、持たざる者は相対的に貧しくなったという、いわゆる“分断”を起しました。豊かな国と貧しい国、その国の中で経済的な大きな“分断”が生じています。そしてその分断は、政治の世界でも強い分断として表面化しました。これが、ポピュリストといわれた政治勢力の台頭ですが、“ポピュリストの台頭”という認識では、今や済まされません。

EU では、強いドイツとフランス、そして弱いギリシャ、イタリアという分断が、EU の統合を揺さぶっています。一方で、その EU に経済成長を求めて加盟したポーランドやハンガリーという、かつての

社会主義国は、期待した経済成長は実現せず、移動の自由によって働き手の中核がドイツ、フランス、イギリスといった、西ヨーロッパに吸引されていきました。国内には、老人が貧困の中に取り残されました。そして今、イギリスは、この東欧からの移民を阻止するという EU 離脱派が優勢となりました。貧しい労働者が、さらに貧しい国から来た労働者のために貧しくなったという認識でしょうか。不幸なシナリオです。人の移動ではなく、海外に投資するという資本の移動は、先進国に産業の空洞化をもたらし、雇用を減らしました。そして、トランプ大統領のメイドインアメリカの貿易交渉に繋がりました。

ポーランドやハンガリーは、イギリスで起きた現象を避けるために、ドイツとフランスが主導で進めた移民受け入れを断固として拒否する右派勢力が政権を握ったわけです。

一方で、現在でも EU 加入を求めている国もあります。トルコ、マケドニア共和国、モンテネグロ、セルビア、アルバニアなどで、今後の状況次第では数カ国が認められるかもしれません。グローバル経済の中では、このような弱い国は自立して生きていけません。目の前の EU の混乱を承知の上で、EU の中で経済成長を追求しているわけです。

イギリスの EU 離脱についても、経済を考えれば EU 離脱の選択肢はありえません。しかし「イギリスの主権こそが大切だ」とする保守層のエリートと、単に感情的にこれについて行く弱者は、分断されながらも同じ行動をとっています。

その背景には、EU という大陸型のグローバル化に対して、アングロサクソンという文化と価値観が合わずに離脱に向かわせたとも言われています。いずれにせよ共通の敵はグローバル化です。

しかし、経済のグローバル化と技術革新は不可逆的に進むでしょう。金融資産の保有の有無、貿易自由化や技術革新による熟練労働者と非熟練労働者の賃金レベル拡大も、このまま行けばさらに進みます。

最悪のシナリオは、再び世界経済がブロック化で互いに自己の利益を追求する状態になれば、第二次世界大戦の前と同じ状況になってしまいます。ですから、経済のグローバル化を認めた上で、経済競争の国際的なルール作りが必要になります。すでにデジタル課税や個人情報の保護等、グローバル経済の弊害を是正する動きが出てきましたが、もっと積極的にこれを推進していく必要があります。この過程で EU とアメリカ、そして中国のせめぎ合いになります。米中貿易戦争は、この一つのせめぎ合いです。

国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は普遍性、包摂性、参画性、統合性、透明性のコンセプトを重視しており、「先進国と途上国の両国が課題に取り組む」、「誰一人取り残さない」、「社会・経済・環境の関連性を念頭に、課題に統合的に取り組む」こと等が謳われていますが、この程度の精神活動では事は済みません。

やっぱり日本の立ち位置、動き方が気になります。本来は日本とアメリカ、そして中国が台湾や ASEAN 諸国と連携を強めて、グローバル経済の中でアジア経済圏の共存共栄をリードする立場ですが、アメリカはすでにアメリカファーストで固まりつつあります。その結果が米中貿易戦争です。この現象は、たとえ民主党政権になっても変わる事はないでしょう。

東アジアでは本来日本と韓国、台湾が強い連携の中で共存共栄を追求していく必要がありますが、現在の東アジア情勢では望んでも無理ですね。

英保守党が労働党をリード、ブレグジット党は支持率低下 - 世論調査

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2019-11-25/Q1HXBHT0AFBD01>

イギリスの EU 離脱の根底にある理由

<https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/PolicyBrief/Ajiken/119.html>

パリから始まる反グローバリズムのうねりは「世界革命」に移行するか

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/58957>

我々はヨーロッパとは違う！…EU 離脱支持の奥底に流れるもの

<https://www.fnn.jp/posts/00421420HDK>

中道左右両派が過半数失う リベラル派、ナショナリスト党が台頭

<https://www.bbc.com/japanese/48418832>

右派与党が圧勝＝EU懐疑、東欧で定着－ポーランド総選挙

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019101400164&g=int>

欧州右派勢力結集へ接近

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/369543>

東部ドイツ 2 州の議会選挙、極右が大躍進

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2019/09/a6bac126bfb90bc8.html>

ドイツ極右政党、州議会選で「メルケル首相の与党下し」第 2 党に

<https://www.bbc.com/japanese/50204669>

G20、グローバル化議論を 学習院大教授・伊藤元重

<https://www.sankei.com/life/news/190513/lif1905130008-n1.html>

反グローバリズム再考：国際経済秩序を揺るがす危機要因の研究

http://www2.jiia.or.jp/pdf/research/H30_World_Economy/H30_jiia_world_economy_research_report.pdf

◆難しくなってきた米中の冷戦◆

香港の選挙は、民主派の圧倒的勝利でした。中国政府にとっては予想外の結果だとのことでした、ということは、香港市民の意識を全く誤解していたといわざるをえません。そしてこの香港市民に応えるべく、アメリカの議会はほぼ全会一致で香港人権法案を可決しました。貿易交渉を少しでも有利にしたいという思惑で、トランプ大統領は署名を躊躇っていたようですが、上院の全会一致の圧力で署名せざるをえませんでした。一言余計です。「中国の習(近平)国家主席と香港市民への敬意から」法案に署名したと。

これに対して中国政府は怒り心頭ですが、民主派の圧倒的勝利と米国議会の全会一致の前に、有効な対抗手段は見当たりません。国際社会も厳しく注視しています。

もともと香港と台湾の問題は、米中貿易交渉に絡んでいて厄介だと思っていましたが、さらに深刻になりました。ということは、米中貿易戦争は難航するということです。そして、中国経済の停滞を及ぼす世界経済の停滞も続くということになります。

選挙を控えた大統領は、何としても中国から譲歩を引き出して成果をアピールしたいので、中国の農産物などの輸入増と引き換えに関税引上げを先送りするくらいの妥協で、一旦は中締めでしょうか。

一方でアメリカ国内での対中強硬派は、政権内でも議会でも相当強いようです。ですからハイテク製品の輸出規制は依然として強化されています。中国の台湾海峡や南シナ海でのアメリカへの対抗行動も活発です。アメリカと中国の冷戦はむしろ激化していますが、外交の素人のトランプ大統領は、中国に押され気味です。トランプ大統領がアジア軽視の態度をとっている間に、中国は ASEAN 諸国の支持を固めています。この地域でのアメリカのプレゼンスは、大幅に低下しています。

このアジア情勢の中で、日本はどうするかです。中国は日本と経済連携を強め、アジア全体に中国経済圏を拡大強化していくでしょう。RCEP はインドが脱退のようですから、インド抜き RCEP を

中国と連携しながら推進していくには外交力が求められます。アジアは、日本と中国で仕切っていくしかありません。

中国 習近平主席「貿易戦争恐れないが 合意に向けて努力」

https://www3.nhk.or.jp/news/html/2019/11/22/k10012187791000.html?utm_int=detail_contents_news-related_002

トランプ大統領「最後の苦しみ」 米中貿易交渉 詰め協議続く

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/2019/11/27/k10012192791000.html>

「過度なリスク」製品の利用制限 米商務省、規制案公表 中国念頭

<https://mainichi.jp/articles/2019/11/27/k00/00m/030/072000c>

香港区議会選、民主派が地すべりの勝利

<https://www.bbc.com/japanese/50541553>

香港区議会選、総得票数に見えた分断 中国側は驚き隠せず

<https://www.asahi.com/articles/ASMCT66RTMCTUHBI01V.html>

トランプ氏、香港人権法案に署名 中国は反発

<https://www.bbc.com/japanese/50582398>

トランプ米大統領欠席に反発 「外交知らない偽善者」－ASEAN

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019110400363&g=int>

グラフで見る米中貿易戦争

<https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-48211304>

◆米日韓の同盟から中朝韓の同盟を夢見ている文在寅大統領の悲喜劇◆

韓国は、期限ギリギリで渋々と歯切れの悪い GSOMIA 破棄の延期を発表しました。アメリカは国防長官以下国防省の高官を次々と韓国に派遣し、GSOMIA 延長を強く迫りましたが、最後の国防長官との会談でも、文在寅大統領は延長を拒否しました。韓国の関係高官がワシントンに呼ばれ、最後通商を突きつけられたのでしょ。否定はされましたが、最前線の米軍の地上部隊引き上げを通告された可能性が高いと思います。そして国防相以下関係者の断固とした説得に、文在寅大統領も抵抗できなかったのでしょうか。以前でしたら軍事クーデターものですから。

しかしアメリカと韓国の信頼関係は大きく失われ、米韓同盟は弱体化しました。日本と韓国の外交関係も最悪ですが、自衛隊と韓国軍の信頼もレーザー照射事件に続き、この一連のドタバタで大きく揺れたと思います。もともと、韓国がアメリカから入手した極秘情報を北朝鮮に流しているのではないかという疑いから、この GSOMIA をアメリカが強く推進し、その過程でも前政権下の韓国は署名のドタキャンをしたりして反米色をあらわにしていました。韓国国民の反米感情もかなり強いとも言われています。

文在寅大統領と日米の地政学的な認識が、全くずれています。日米は、東アジアは中国、ロシア、北朝鮮と日米韓が対峙する状況にあるという認識です。一方の文大統領は、中国、韓国、北朝鮮の関係強化でこの地域の地政学が収まるという認識のようですから。

この文在寅大統領の認識をあざ笑うように、北朝鮮はミサイル発射や長距離砲の射撃訓練を繰り返しています。それでも文在寅大統領は中朝韓の連携協力を追求するのではないかと、アメリカは疑念を持っていると伝えられています。

シンガポールで劇的に始まったアメリカと北朝鮮との非核化交渉ですが、最近は何の進展もなく、ひたすら個人的な関係をアピールしてきたトランプ大統領も見果てぬ夢と諦めつつあるのではないのでしょうか。

最近の北朝鮮の強硬な行動は、すでにミサイル搭載の核弾頭は完成し、これがあれば北朝鮮は他国の侵略を排除し、現在の体制を温存できるという自信からではないでしょうか。

金正恩委員長はスイスで教育を受けましたので、ヨーロッパ文明はよく理解しています。ですから、スイスが堅固な自国防衛体制で、あのヒトラーに侵攻をあきらめさせた歴史を改めて認識し、核保有国になることでスイスと同じ堅固な自己防衛体制を実現し、この厳しい国際情勢を生き抜くことができると信じているのではないかと、最近、思います。これは、あくまで私の勝手な空想ですが、ですから、どんな交渉があっても、絶対に核を放棄することはないと思います。

この核付きの北朝鮮と統一することによって宿敵日本を凌駕する事を、文在寅大統領は夢見ているのでしょうか。追求するものが「反日」で、ついてくるものも「反日」では、韓国国民もいつまでも文在寅大統領支持は続けられないでしょう。追求するものは「東アジアの安全保障」で、ついてくるものは「韓国経済の持続的成長」であるべきですから。

韓国「GSOMIA 維持」の裏側、対日シナリオ崩壊と米国頼みの“万事休す”に

<https://diamond.jp/articles/-/221694>

GSOMIA 維持も、米国は「韓国は今後も中国に接近」と予測 もう収まらない怒り

<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20191126-00594682-shincho-kr>

韓国が「あくまで GSOMIA の破棄の延長」とするのは中国へのメッセージだった

https://www.1242.com/lf/articles/214840/?cat=politics_economy&pg=cozy

文在寅大統領は何がしたいのか、なぜ韓国は GSOMIA で苦しむか

<https://www.newsweekjapan.jp/imai/2019/11/gsomia.php>

北朝鮮 米との首脳会談「無益でこれ以上興味ない」

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20191118/k10012182021000.html>

米軍司令官「北朝鮮はこの地域で最も差し迫った脅威」

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20191124/k10012189071000.html>

北朝鮮、「本当の弾道ミサイル」で日本を脅す

<https://www.bbc.com/japanese/50615720>

北朝鮮が境界線近くで砲撃訓練 韓国は合意違反と初めて批判

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20191125/k10012191011000.html>

◆俯瞰のクッキング“サンマ料理 2 皿”◆

ともかく今年の秋刀魚は美味しくありませんね。秋刀魚は塩焼きで、スダチ、大根おろし、醤油が一番美味しいと思いますが、秋刀魚の美味しい料理を二つ紹介しましょう。

最初はイタリア料理風です。スーパーの魚屋で秋刀魚を三枚におろしてもらいます。自分でもできますが、短時間に綺麗におろしてくれます。一人1尾でもいいですが、美味しいので二人で3尾にしましょう。

表面に塩を振って、しばらく置いて水気をペーパータオルで吸い取ります。皮の方を下にしてグリル皿かオープン皿に並べます。オープン皿の場合は、クッキングペーパーを敷いておいた方が、後が楽です。

美味しくないと秋刀魚を美味しくするために、パルメザンチーズをおろして振ります。これがポイントです。ボールにパン粉と細かく刻んだニンニク、オレガノやイタリアンパセリなどのハーブも入れてかき混ぜます。これを、パルメザンチーズを振った秋刀魚の上に振ります。焼き上がった時にここが美味しいので、満遍なく振るのがコツです。その上からオリーブ油を、これもまた満遍なく振りかけます。少しずつ出てくるオリーブ油の瓶を使うとうまくいきます。

これを 200 度のオーブンで 18 分から 20 分焼きます。私はパナソニックの BISTRO のグリルを愛用しています。仕上がりにカボスなど絞って食べると美味しいです。

次の料理は、秋刀魚のカレーです。「孤独のグルメ」という番組のセリフの中に「秋刀魚のカレー」という言葉がありましたので、適当に作ってみました。

サンマの頭と尻尾を切り落として三等分して、指でハラワタを出し水で洗って、拭いて塩を振りまきます。しばらくおいて水気を拭き取り、カレー粉も少し振っておきましょう。小麦粉をはたいて、油を大さじ一杯程度入れたフライパンで軽く焦げ目をつけるように中火で焼きます。焼けたら皿に取り出しておきます。

カレーソースを作ります。皆さんそれぞれカレーのレシピが確立されていると思います。市販のカレールーをスープで解いて簡単に作れますが、私は手作りカレーを作ります。

ニンニクと玉ねぎを丁寧に炒めて、小麦粉を少し振って炒めます。トマトジュースを 100 から 150 cc くらい入れ、ちょっと煮て水をカップ 2 杯ほど入れて、顆粒の鶏ガラスープを大さじ 1 杯から 2 杯くらい入れてしばらく弱火で煮込みます。以上、すべて適当です。少し煮てからカレー粉を入れます。これも好みで、他のスパイスも入れます。一般的にはガラムマサラです。

塩胡椒で味を整えて、焼いておいた秋刀魚を鍋に戻します。少し煮て仕上げにカレー粉とガラムマサラで辛さを調節します。出来上がりです。

秋刀魚を筒切りにすると、食べる時骨が面倒なので、三枚おろしで作った方が良いと思いました。

◆Kindle で電子出版を体験◆

電子書籍は何冊か出版したことがありますが、これまでは専門業者に丸投げでした。3 年ほど前に企画編集した原稿がそのままになっていましたので、一心発起して自分ですべてやってみることにしました。結論からいうと、きわめて簡単で、お金をかけずに書籍が出版できます。

Web で Kindle を出版する方法のサイトがいくつかありますが、かなりのサイトが誤っていました。これにかなり振り回されました。私の成果は下記の記事です。

◆俯瞰の書棚“サムライたちのイノベーション”◆

今回は「サムライたちのイノベーション」磯部宇彰、岡太朗、城下了輔、名和愛乃 kindle 出版 2019 です。企画・編集は松島克守です。

この本は作りたかった本であるとともに、是非読んで頂きたい本です。ドラマチックで従来の本の印象を変える本です。是非読んで頂きたい。アマゾンで、500 円で発売中です。追って紙の本も発売されますが、そちらは 1350 円です。

本書はイノベーションの本質と要諦を、日本のイノベーションを牽引する人たち、学生に提示したいという目的で編纂しました。クレイトン・クリステンセンのイノベーション論とは別のイノベーションの原理を学生に教示したいという強い意志で、3 年以上頑張りました。Kindle での書籍発行は初めてでしたが、すべて自分で作業しました。

イノベーションのケースとして紹介したのは、ソニーにおけるイノベーションの壮絶な格闘の物語と、創業者と日本初のグローバル企業を作った物語です。ベンチャーの複合体から大企業組織に変身していったソニーに見るイノベーションのジレンマ、その壁にぶつかっても不退転の覚悟で

それを突破して行ったイノベーター達のドラマです。その物語からイノベーションの本質を少しでも見つけたいという思いで、本書をまとめました。

本書は外部の視点で事実を淡々と記述する文体ではなく、話者と一緒に当時の世界にタイムスリップするようにインタビューを行い、その感動をドラマのように読者と共有したいという思いで書き込んだ文体です。当時大学院の学生であった4人の著者の躍動的でドラマのような文体は、イノベーター達のドラマチックな挑戦のプロセスを共有させてくれるでしょう。

本書は読者に目の前に障害があっても不退転の決意で、イノベーションに、人生に挑戦する勇気を与えてくれると信じます。
下記の目次で内容を想像して頂けると幸いです。

『サムライたちのイノベーション』

・目次

・プロローグ

・第一章 コンピュータが解らない会社は生き残れない

武鑑行雄、まさかのソニー入社

岩間社長の意地と加藤善朗の自信

仲間よ、集えソニーのフロンティアに

システム開発部に盛田現れる

盛田のニューヨークでのプレゼン

全米で最も使いやすいワープロ

ライバルがどんどん増えてきた

若者はインドに行け

・第二章 スティーブ・ジョブズを救った日本人

IBMを超える！ 嘉本の固い決意

夢といわれた技術を現実に

HPに即決で導入され、3.5インチFDが世界へ羽ばたいた

スティーブ・ジョブズが無言で退席

その試作品の前に、ジョブズが立っていたのだ

IBMがソニー規格を採用、ついにIBMを超えた

ジョブズからの絶対的信頼でアップルに誘われるも、ソニーの仲間を取る

好きなのに別れる、嘉本は決意した

・第三章 自分たちが欲しかったコンピューターを創った

厚木で出会ったNEWSのキーメンバー

自由な環境での自由すぎる開発がスタート

事業部との交渉決裂、社内ベンチャーとしての始まり

正式な組織立ち上げより先に試作機が完成

デュアルプロセッサ方式に泣かされた

国家プロジェクトを通じて繋がった同志

開発後も孤立したNEWSグループ

日本中が歓喜に沸いたNEWSの製品発表

時代の波間に姿を消したNEWS

次世代へと繋がっていくNEWSの人材

・第四章 コンピューターを手の平に乗せる

突然の撤退命令

目指すのは、漢字が分かるタブレット

書き順が違うぞ

まさかの容量オーバー

ソニーにできないことはない

お前、新聞に出てるぞ

本当に売っている！

安くしたのに売れない

早すぎたパームトップ

知らないからこそ、挑戦できた

もう一度ソニーを作るには

・第五章 ロボットを生き物にしたAIBO

正月に土井利忠に誘われ、行ってみたら変な機械があった

ロボットビジネスは必ず成功させてみせる

出井社長という壁、それを越えた驚きの方法

資金・人材の壁を越え、事業が加速

試作品のプレゼンに異論続出

足りない広告費、そこへ河野透が救いの手を差し伸べた

AIBOは二十分で完売、大槻は勝った

AIBOは人々にとって単なる「商品」ではなかった

AIBOの販売が中止されることなく続けられていたとしたら

大槻は再びソニーを去る。しかしAIBOへの愛を抱いたまま

使えなくなったAIBOをペットオーナー達が「献体」として提供

・第六章 電子マネーに賭ける人生

世界初の電子マネーを創るプロジェクト

優れた技術を如何にして普及させるか

これからのソニーの在り方を案じる

フェリカとの出会い

ソニー銀行のプロモーションビデオに衝撃を受ける

おサイフケータイ 一度目の挑戦、そして断念

スイカ導入に立ちはだかる数々の壁

WTOを通じた欧米の横やりを跳ね返す

おサイフケータイ二度目の挑戦

おサイフケータイにEdyが載るまでの格闘

運用開始当初の壁、ユーザーを如何にして増やすか

普及していったからの壁、法律に関する課題

国際標準の壁を乗り越えて フェリカが世界に認められる

今、宮沢和正の目指すもの

・第七章 よく遊び、よく学んでイノベーターに

就職はソニーかホンダと決めていた

入社早々社長の井深さん直轄のプロジェクトを任された

よく遊び、よく学び、アンテナを完成

イノベーションと商品企画は違う

デジタルオーディオの標準化で死闘

CD開発は「誤り訂正符号」でフィリップスに勝利

コンピュータの新しい流れを模索した
イノベーションの条件はフロー

・第八章 ソニーというブランドを創る
ジャンケンポンで決まった最初の配属
20%を狙ったトリニトロン
私にとっての転換期だった
宣伝のターゲットは盛田
新たなマーケットを創るマーケットエデュケーション
波乱を呼んだベータマックスの広告
ソニーの進むべき未来を体現していたAIBO
夢の電池を載せた電動アシスト自転車
新しい広告の形を見出した番組「世界遺産」
絶えずメッセージが求められるソニー

・第九章 ソニーというグローバル企業を創る
佐野角夫と創業者の二人との最初の出会い
佐野の生い立ち、ソニーに入る決断をするまで
国内営業で
の勉強したこと
社長室への異動、初の海外出張を経験する
日本初のニューヨーク上場
日本初となる本格的なIR活動への注力
日本初の格付けを取得
難しい顧客対応から日本初のCSRを実現
日本初の開かれた株主総会の開催
社内外から非難の嵐
CBSレコード買収
コロムビア・ピクチャーズ買収
「のれん代」の一括償却
盛田との挑戦に誇り
次世代にソニーのDNAを伝える

・結章 ソニーに見る、イノベーションのジレンマ
本書の物語に共通すること
岩間社長には時代の先が見えていた
ベンチャーの複合体から大企業への挑戦
経営と技術者の乖離
判っていながら時代と位相がずれる
組織とイノベーションのジレンマ

・エピローグ
・謝辞

以上です。もしかしたら日本人が失ったサムライ精神を再認識して頂けると思います。ご一読をお願いいたします。

◆雑感・私感◆

以上も雑感・私感ですが出来る限り参照データを紹介しています。個人のブログは面白いですが、個人的な偏りがありますからできるだけメジャーなメディアを引用しています。以下は独り言として下さい。

日本に関する記事は書く意欲が湧きません。安倍政権の最初は森友学園と加計学園のしょうもない議論で国会が空転し、最近では桜の花見で、またしょうもない議論で国会が時間を無駄にしています。立憲民主党を中心とした野党が安倍さんの最大の支持勢力になっています。ここまでくると次を狙う動きで政権が弱体化する可能性があります。この強固な支持勢力があれば、安倍首相は内なる敵に時間を割けます。これもしょうがない議論ですね。

萩生田文科大臣の一言「身の丈でやってくれ」この一言で日本の教育が救われました。数十万人の受験で記述式の出題の採点を一括してベネッセが受託という、政治的利権のスキャンダルが未然に防がれ、政権も大学も救われました。

いよいよ民主党の大統領候補の混乱とバイデン元副大統領のスキャンダルを見て、俺がトランプ大統領のアメリカを毀損するハチャメチャな行動を止めると言って、元ニューヨーク市長のブルームバーグ氏が旗揚げしました。安全な街ニューヨークを安全で繁栄する街に変えた実績は評価されると思います。選挙資金をすべて自前で、献金はいらぬ、成功した男の花道です。

もうすぐ結果がわかりますが、イギリス総選挙で保守党が勝利して、1月末のEU離脱を達成しそうです。絶体絶命の状態から一貫して主張したEU離脱を実現すれば、ジョンソン首相は歴史に残る首相となるでしょう。結果は経済的なインパクトをどこまで抑えられるかです。

東南アジアに対する中国の影響力は、アメリカを遥かに凌駕しています。日本も頑張っていますが、圧倒的な市場を持つ中国に各国は逆らえません。日本は長年の努力によってアジア諸国に信頼されていますが、戦略的な対応ができていないようには見えません。金融だけでなく、日本の持つソフトパワーをどこまで有効に使うかです。アジアに羽ばたく日本人がもっと必要です。

◆内容・記事に関するご意見・お問い合わせ/配信解除・メールアドレス変更は、右記まで：
webmaster@fukan.jp

◆俯瞰 MAIL95号(2019年12月3日)

発行元:一般社団法人俯瞰工学研究所

発行人:松島克守

編集長:松島克守

配信人:石川公子

URL:<https://www.fukan.jp/>
